

毎週金曜日の晩に食事会が行われている「べてぶくろ」にて



「弱さを絆に」「昇る人生から降りる人生へ」。こうしたユニークな理念は、北海道・浦河伝道所の旧会堂で1984年にスタートした、精神障がい者らによる地域活動拠点「べてるの家」のものだ。障がいを持つ当事者たちが、自らの苦労や行き詰まりの経験を語ることを通じて、その解決策を見いだしていく「当事者研究」を実践し、注目を集めている。

現在、その理念を受け継ぐ活動が東京・池袋で展開されている。その名も「べてぶくろ」。



撮影・小林恵

「弱さを誇る」コミュニティ作りを

コミュニティホーム「べてぶくろ」主宰

向谷地宣明さん

むかいやちのりあき 1983年北海道浦河町生まれ。同地の社会福祉法人「べてるの家」理事の向谷地生良さんの子として育つ。2006年の国際基督教大学卒業後、株式会社エムシーメディア代表取締役。2010年からは東京・池袋で「べてぶくろ」を運営。医療法人宙委会・ひだクリニック理事でもある。当事者研究のノウハウの伝授や講演会、イベントなどで活躍中。日本キリスト教団・浦河伝道所会員。

ろ」。ホームレス状態にある精神・知的障がい者の支援を中心に、当事者研究、炊き出しなどを行う。これを主宰するのが、べてるの家の生みの親である向谷地生良さん(むかいやちのりあき)の息子、向谷地宣明さんだ。

べてるの家で生まれ育った宣明さんが東京に来たのは、2002年の大学進学時のこと。普通の学生だったという宣明さんだが、べてるの家の話を聞きたいと、福祉施設、メディア、教会などから次第に声がかかるようになった。

「『べてるの家では何をしているのか』などと聞かれましたが、子どものころは、障がいなど関係なく、べてるの家の当事者たちとごく普通に接していました。でも、自分にとっては当然の経験こそが、東京では求められたんです」

大学卒業後、宣明さんは共同住居の運営などを手がける株式会社エムシーメディアアン

を立ち上げ、2010年にべてぶくろをスタートさせた。べてぶくろでは、場を作ることを大切にしている。一軒家の一階部分を借りて当事者研究などを行うほか、当事者が入居できるようアパートを1棟借り上げた。その理由を、宣明さんはこう語る。「ホームレスの人が行政の支援を受けられるようになって、失踪することが多々あります。その理由を一緒に研究するのが、この場所です。孤立しないようにつなぎ止めてくれるコミュニティが、必要なんです」。

取材の日は、べてぶくろの夕食会。当事者もそうでない人も、誰もが共に食卓を囲み、生活状況を話し合う。その後、ある男性が記者に自分の経験を話してくれた。「家にいると幻聴がするけど、ここに来たら止まるんです」。べてぶくろを通じて、当事者たちは着実に、自らの症状との付き合い方を見つけてつつある。

べてぶくろの運営や講演などで多忙な日々を送る宣明さんだが、「自分は主体的というより受け身」だという。「聖書にもあるように『弱さを誇る』ことの大切さを、べてるの家で自然に学んできたことが、自分の生き方には影響しています」。

べてぶくろは、弱さを隠さず、お互いがあるままにいられる場だ。それを可能にするのは、べてるの家で培われた宣明さんの柔軟な生き方であり、感性である。

日曜日は教会・伝道所へ

信徒の友 2
 困難生活を糧にするキリスト教雑誌 月号
 特集
ネット社会と教会の信仰
 つながることの大切さ、切ることの大切さ
 同志大学教授 小原克博
 私の教会のネット活用
 青森松原教会
 カンパランド長老キリスト教会めぐみ教会
 世界の教会
 特別読み物
 日米教会青年交流でアメリカ訪問
 日本基督教団伝道推進室
 被災地・大船渡からの証し 櫻井貴弘
 見本単価・下配へ 570円(本体543円)
 日本キリスト教団出版局
 〒156-0051 東京都東区東横田3-3-18-41
 営業課 TEL.03-3204-0422

